

「保健医療科学」  
第51巻 第2号 予告

国立保健医療科学院の誕生

「公衆衛生研究」から「保健医療科学」へ (エディターズ・レポート) .....	箕輪真澄
国立保健医療科学院の組織 (試験研究機関再編、新しい組織と機能、研究機能など) .....	林 謙治
国立保健医療科学院の教育体制とシステム .....	岩永俊博
研究情報センターの役割と機能 .....	土井 徹
国立保健医療科学院の国際協力と国際研修 .....	山本弘史
各研究部から - 今後の抱負と研究内容の紹介 .....	各部長

編 集 後 記

本号51巻1号をもって、いよいよ「公衆衛生研究」の幕を引くことになりました。その編集に携わってきた者の一人としては複雑な想いがありますが、本号に先立って発刊された特別企画号「国立公衆衛生院の移転・再編1988-2001」にもあるように、新しい旅立ちと考えれば未来への期待がわいてくる感じがします。さて、本号の特集は「合同臨地訓練」です。様々な職種の学生がチームを組んで、現場の公衆衛生上の問題点を現場の関係者と一緒になって議論しその解決に向けた取り組みを体験するという極めて実地的な「教育」が大学を含めた他機関にはみられない国立公衆衛生院の特色の一つでした。本号では、その歴史と展望、最近の報告、に加えてケニアで実施された合同臨地訓練も報告され、大変興味深い内容となりました。

次号からは、研究所の名称が「保健医療科学院」と変わることにともない、雑誌も「保健医療科学」という新しい名称に変更され、新しい編集体制で発足する予定です。もちろん、合同臨地訓練も継続されます。名称はかわっても新しい雑誌をよろしくお願いします。

丹後俊郎 (附属図書館)